



むさしの地域猫の会

地域猫を見守り、人と猫が共に暮らせるまちづくりを目指す

「むさしの地域猫の会」の発足は2006年。当時、武蔵野市は「猫のまち」と呼ばれるほど地域（野良）猫が多く、市への苦情は年間200件以上あったと聞いています。その問題を解決するために市民の方々がボランティア団体「むさしの地域猫の会」を立ち上げ、市の環境部環境政策課（現在の名称）と協働し活動を開始。「猫トラブルをなくし、人も猫も快適に暮らせる街」を目標に地域猫への相談対応や捕獲した地域猫に不妊・去勢手術を行い地域へ戻す「地域猫活動（TNR※）」を中心に行ってきました。熱心な活動は実を結び市内の地域猫の数は減少。市への猫トラブルの苦情も大幅に減ったそうです。

現在、「むさしの地域猫の会」のボランティア会員は402人。その会員をまとめるのが4代目会長の西村麻衣子さん。西村さん自身も近所の子猫の保護をきっかけに、保護活動を知り興味を持ったそうで、2代目会長の今村さんの誘いを受けて2011年に会に参加しました。「会長になったのは2014年です。その頃は毎日が猫トラブルの苦情の電話対応で大変でした。地域猫活動では、地域猫を追い払うために水をかけるなど、目を覆い

たくなる扱いをする方もいて心が痛むこともありました。個人的には地域猫を見守りつつも猫の繁殖を減らすのは、地域だけでなく猫にとっても良いことだと思っています。近年は気象条件も外で暮らす地域猫にとって過酷な環境ですから」と西村さん。

会では発足して数年後から子猫の保護・譲渡活動も進めており、里親譲渡は1800匹を超えています。里親の方々からの近況メールやSNSで譲渡した猫たちが幸せに暮らしている様子を見ることが一番のやりがいと話してくれました。さらに今年から保護・譲渡活動の幅を広げ、多頭飼育崩壊や病気・高齢が理由で飼育困難になった飼育猫の保護・譲渡活動を市と協働し進めています。活動は順調ながら目下の課題もあり、それが譲渡会の場所の確保。「今は武蔵野商店会連合会の皆様のご厚意で場所を確保できていますが、近い将来、使用しているビルの取り壊しが決まっています。できれば市の施設を利用していただけるのでうれしい」と西村さん。人も猫も快適に暮らせるまちづくりの取り組みは、これから続きます。



むさしの地域猫の会の詳細はこちら



11月7日に行われた譲渡会では26匹の保護猫が参加しました

むさしの地域猫の会

2006年9月に発足したボランティア団体。猫トラブルによる相談対応、地域猫活動（TNR）から活動を始める。地域猫活動では、地域猫への餌やりマナーの普及・啓発、不妊・去勢手術後の地域猫の管理も実施。地域猫活動の成果が見られる現在は、子猫・捨て猫の保護・譲渡活動を中心にを行うほか、多頭飼育崩壊防止・飼育猫の適正飼育の啓発・対応、地域猫の不妊・去勢手術の助成なども積極的に行う。



西村麻衣子さん（後列中央）と「むさしの地域猫の会」ボランティア会員の皆さん



感染症予防対策での人数制限にも関わらず、譲渡会は大盛況でした